

最近話題の「上咽頭炎」って どんな疾患？

◆のどの痛みだと思いきや、鼻の奥に原因が！

朝起きると、気道に痰が溜まっている。のどがイガイガする、つまった感じがする、咳が出る。首が張った感じ、肩こりがある。

これらの症状から「風邪かも？」と内科に行って薬を出されても一向に治る気配もない……。そんなときは、慢性上咽頭炎を疑ってみる必要があります。

上咽頭とは、左右の鼻の穴から入った空気が合流するポイント（左図）。子どもの場合、ここには「アデノイド」と呼ばれる腺様の組織があります。

アデノイドはイソギンチャクのようにいくつもの突起をもっていて、外部感染から子どもの体を守るため、免疫細胞をつくる働きをしています。

その後、体が成長して大きな病気のリスクが減ってくる10歳ごろから、アデノイドは徐々に縮み始め、やがてはゆるやかな凹凸になります。これが上咽頭です。この凹凸部分には、鼻から吸った空気の中のゴミが溜まりやすく、乾燥や炎症が続くと容易に上咽頭炎になってしまいます。鼻腔から内視鏡でのぞいてみたり、塩化亜鉛という特殊な液につけた綿棒でさわってみないと、なかなか診断が付きません。

これまでは耳鼻科においてもさほど注目されてこなかった上咽頭炎が、実は放置すると数々の怖い疾患を引き起こすことが近年わかってきています。

